

第 8 回北東アジア OSS 推進フォーラム議長声明

(英文案を日本語に翻訳)

2009 年 10 月 20 日

我々北東アジア OSS 推進フォーラムは、3ヶ国の産学官およびコミュニティの知を集めて OSS の普及促進を目指し、さらにアジアワイドとワールドワイドでの貢献を目標に掲げ、2004 年に設立された。

そのために、我々は以下の 3 つのワークグループを設立した。WG1 は Technology Development & Assessment (技術開発・評価)、WG2 は Human Resource Development (人材育成)、WG3 は Study on Standardization and Certification (標準化・認証研究)として協調作業を推進してきた。これらの様々な活動は日中韓の 3 カ国が生み出したオープンイノベーションの真の成功例であると認識している。

我々の北東アジア OSS 推進フォーラムは、本開催で 6 年間通算 8 回のイベント開催を数える。これまで我々は 3ヶ国の協調作業により OSS の普及促進に寄与する数々の実りある成果を達成してきた。

我々は、2009 年度においてもさらに多くの重要な成果を見出した。

WG1:

Linux サーバ向けのリソース管理ツール群である OpenDRIM2008suite を 2009 年 3 月にリリースした。このプロジェクトで開発した CIM(Common Information Model)プロバイダモジュール¹を Ubuntu²に提供し、Ubuntu の次期バージョンで正式にサポートされる予定である。Linux カーネルのバージョン間での互換性をテストするツール Crackerjack の最新版 v3.0 を 2009 年 10 月にリリースした。同時に、テスト結果の情報を公開するサイトをオープンし、Autotest プロジェクト³のサイトと相互リンクを実現した。また LTP(Linux Test Project)⁴にテスト関数のソースコードを提供した。これらの成果は、日中韓の活動を通じて、世界に発信していく。日中韓のクラウド技術に関連した情報交換をするためクラウドタスクフォースを WG1 の下に新設した。WG1 の活動は、世界のコミュニティから重要な貢献として認められつつあり、今後もこ

¹ 収集したリソース管理情報を、国際標準形式である CIM 形式で表現し、提供する機能を持ったモジュール

² Linux ディストリビューションの1つで利用者が急速に増加している

³ Linux カーネルを信頼性・性能の観点で自動テスト実行するプロジェクト (<http://autotest.kernel.org/>)

⁴ Linux カーネルの信頼性テストツールを開発しているプロジェクト (<http://ltp.sourceforge.net/>)

うした世界のコミュニティとの連携をより一層強化していくことを確認した。

WG2:

WG2 は、“2nd Human Resource Development (HRD) Symposium” を北京で 2009 年 2 月に開いた。加えて、“Northeast Asia (NEA) HRD Model Curriculum (Draft1.0)”を 2009 年 7 月に出版した。WG2 はカリキュラム改善を継続して、モデルカリキュラムのドラフト 2.0 を 2009 年中に出版する予定である。WG2 は第 4 回 CJK OSS 貢献者賞および第 2 回 CJK OSS 特別貢献者賞を第 8 回東京フォーラムで開催し、OSS 人材育成を推進した。

WG2 は、日中韓が第 9 回フォーラムを一日延長し OSS トレーニングセッションを行うことに合意し、次のステップを議論することにした。さらに WG2 は、最初のステップとしてモデルカリキュラムの改善を行うことにより、教育のエリアから“NEA OSS Wiki プロジェクト”を形成することに合意した。

WG2 は、OSS スキルディクショナリをベースに日中韓の OSS エキスパートの harmonized certificate system (協調した認証) の研究を継続することにした。

WG3:

WG3 は、第 1 期プロジェクトの成果として、文字入力エンジン SPI 仕様 (WR00001)、ウェブデータ相互運用性の問題 (TR00003)、および同問題点の解決法提案 (TR00004) を 2008 年に公開した。これらの公開後、東京で開催された WG3 の第 12 回会合を以って SWG1 と SWG2 を解散した。

さらに、次期プロジェクトの検討のための、次期作業タスクフォースの設立を、第 7 回北東アジア OSS 推進フォーラム(無錫)で宣言している。WG3 は 2009 年に入り、この次期作業タスクフォースを開設し、今回の北東アジア OSS 推進フォーラムまでに 3 回の会合を持った。数個の次期プロジェクト候補が議論されているが、最終決定までにはさらなる議論が必要である。

これらの成果が得られたのは、これまで北東アジア OSS 推進フォーラムの活動を支援してきた 3 ヶ国の産学官およびコミュニティの方々の並々なる努力の賜物であり、深く感謝している。また、これらの基礎となっているワールドワイドのオープンソースコミュニティ活動についてもこの場を借りて感謝したい。

現在の情報社会においては、我々が推進してきた OSS は、IT インフラの整備や組み込み機器の創出に対して基本的かつ不可欠な要素のひとつとなっている。また、様々な領域において、Open Standard の概念を前提とした技術革新や技術、サービスにおけるトレンドの遷移が起こっているが、これらの先進領域においても、OSS

がそれらの有益な構成要素の位置付けを確立していることは紛れもない事実である。我々北東アジア OSS 推進フォーラムとしても従来の活動を強化すると共に、これらの先進領域に対する取り組みを推進していくべきである。

次回は、2010 年韓国において第 9 回が開催される予定である。今後もこの北東アジア OSS 推進フォーラムの活動を通じて、3 ヶ国およびアジアの IT の発展に寄与していきたい。